

社会教育委員会 会議概要

- | | | |
|---|-----------|---|
| 1 | 審議会名 | 第4期第10回社会教育委員会 |
| 2 | 日 時 | 平成26年5月27日 午前9時30分から午前11時まで |
| 3 | 会 場 | 教育委員会第2庁舎会議室 |
| 4 | 出席者 | 安井幸次委員 春原尚江委員 西田力委員 竹田貴一委員 聲山永子委員
関和幸委員 宮島渡委員 山浦美幸委員 |
| 5 | 市側出席者 | 岩倉生涯学習課長、宮澤生涯学習係長、吉田生涯学習係主査 |
| 6 | 公開・非公開等の別 | 公開 |
| 7 | 傍聴者 | 0人 記者 0人 |
| 8 | 会議概要作成年月日 | 26年5月27日 |

協議事項等

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 会議事項
 - (1) 提言書の提出内容について
 - (事務局) 提言書の内容について事務局から説明。
 - (委員) とてもうまくまとまっているが、現場の状況と少しずれているような印象を受ける。ボランティアや地域コーディネーターの育成も重要だが、まずは学校、地域、コーディネーターが情報を共有することが必要だと考える。うまくいっているところは、話し合いがしっかりできているため、需要と供給がぴったりとしている。
 - (委員) 「学社融合の重要性を地域住民に周知する」とあるが、周知の仕方について具体的に記載したほうがいいのではないか。
 - (委員) 学社連携について、ボランティアと地域コーディネーターについては書かれているが、学校についての記載がない。この三者が一体となって進めていくことなので、学校についても触れた方がいいのではないか。
 - (委員) 提言書は、社会教育委員の方向性を示すもの。学校への要望事項を入れるのは、なじまないのではないか。
 - (委員) 学校によっては、ボランティアにすべてお任せ、丸投げしてくるところもある。この事業に対し学校側がどの程度理解しているのか疑問に思う。学校は学社連携を必要としているのか。
 - (委員) 「学社連携」と言われて久しいが、なかなか前に進まない印象がある。
 - (委員) 担当する職員、学校長によって対応が変わることが予想される。また、コーディネーターには専門性が必要である。長い目で見た時に各学校に一人専属のコーディネーターが必要ではないか。
 - (事務局) 学校支援は市内全学校一斉に行うのではなく、川西小学校等先進的な事例を参考にしながら地域や学校の実情に合わせ、できるところから取り組むことが適当と考える。そのためには、まず、学校が地域に対し何を望んでいるのかをしっかりと把握する必要がある。それを基に地域に働きかけていくのだが、そこで重要になるのが、学校と地域の間を取り持つコーディネーターの存在。当面それを担うのは、地域に根差した活動をしている公民館の役目と考える。
いずれにしても、今日出された意見を踏まえ提言書を修正し、次回の会議で再度御検討いただきたい。
 - (2) その他
 - ・今後の会議の日程等確認
- 4 その他
 - 次回：平成26年7月8日(火)9時30分開催